

三菱地所 初の病院不動産開発

三菱地所は、札幌市で同社初となる病院不動産開発事業（仮称）札幌南徳洲会病院建替計画」の新築工事に着手した。設計監理は内藤建築事務所、施工は日本建設が担当し、2021年5月の完成を



完成イメージ

札幌南徳洲会病院を移転建替え 新築後に医療機関に賃貸、来年5月完成

目指す。規模はRC一部S造地下1階地上2階建て延べ7180平方メートル。徳洲会が所有・運営する既存札幌南徳洲会病院（清田区里塚）は営業を継続し、清田区平岡で建設する新病院完成後に移転する。新病院は三菱地所が保有し、徳洲会が賃借・運営する。

施設は、高齢者機能の充実や患者に寄り添う日本一のホテルスペースを病院実現を目指す。病床数は一



サンルームのある緩和ケア病室

般48床、ホスピス40床、人工透析25床を備える。診療科は内科、消化器内科、緩和ケア内科、呼吸器内科、腎臓内科、循環器内科、糖尿病内科、リハビリテーション科、漢方内科の全9科。

森と一体となったカフェや四季を感じられるデイルーム、医療知識を深める場として利用可能な多目的ホール、北海道の風土に配慮したサンルームのある病室などを設けるほか、土地の起伏を生かし、透析専用玄関も確保する。

建設地は清田区平岡5-1-5の敷地1万0105平方メートル。

超高齢化社会を迎え、老朽化した病院の機能更新が課題となっている。同社は今回の病院建て替え事業のように、建物新築後に医療機関に施設を賃貸するなどの手法を使った計画を既に日本全国で複数進めているという。

将来的には、医療を核に住宅や商業施設、オフィスなどを組み合わせたウェルネスタウンの実現を目指すし、病院不動産開発事業を加速する。

